

「ロータリーの友月間に因んで」

今月はRIが「基本的教育と識字率向上月間」と定めていますが、日本独自の「ロータリーの友月間」でもあります。

RIは2015-2016年度から特別月間を大きく変更したのに伴い、従来4月に設定されていた雑誌月間がなくなり、日本独自の特別月間として『友』を推進し、プロジェクトのアイデア、新会員の勧誘、ロータリーへの情熱の喚起のために設定されました。

「ロータリーの友」が発行されたのは、1952(昭和27)年7月から日本の地区は、東日本と西日本の2地区に分割されることになり、これまで共に活動してきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有するための機関誌として、企画されました。1953(昭和28)年1月から毎月発行すること、価格を50円とするが、広告を取って100円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすることなどが決定されました。

また、この雑誌を縦書きにするか横書きにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行ったところ、2対1の割合で、横書きが採用されることになりました。

戦後10年もたっていないなかったという時代背景を考えると、この結果は、当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることができます。

また『ロータリーの友』の“友”は何処からとったかという『主婦の友』からとったというエピソードもあります。

最初、横書きでスタートした『ロータリーの友』ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合の悪い欄が始まり、これらを縦書きで入れることになりました。

1972(昭和47)年1月号から、縦書き、横書きを分けて、それぞれに表紙をつけました。左に開けると横書き、右に開くと縦書きという形の他では中々見受けられない雑誌になりました。

1977年、RIが公式地域雑誌の規定を設けました。

これにより、ロータリアンは、RIの機関誌『The Rotarian』だけでなく、RIが指定した公式地域雑誌を購読することで会員としての義務を果たすことを規定しています。

全世界にはロータリーの友の様な地域雑誌が32誌もあります。

今週の土曜日、甲子園球場で「全国ロータリー親睦野球大会」に出場しますが、この大会の切っ掛けを作ったのは『ロータリーの友』です。

京都伏見RCの松原会員が「野球チームを作りましたから、どなたか試合をしませんか」という投稿が始まりでした。

2014年1月号から電子版も発行されていますので、大いに『ロータリーの友』を活用していただきたいと思います。